# 奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島

*Amami-Oshima Island, Tokunoshima Island, Northern part of Okinawa Island, and Iriomote Island*

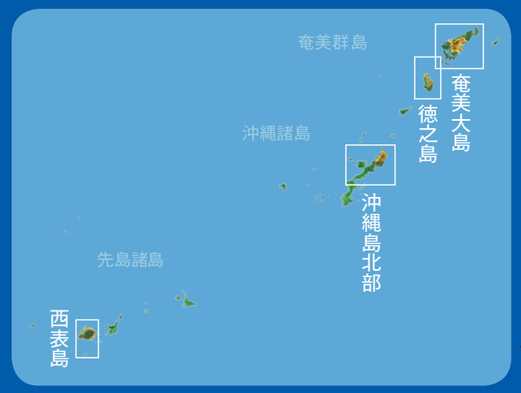
世界自然遺産の登録区域は、鹿児島県の奄美大島と徳之島、沖縄県の沖縄島北部と西表島の4つの地域（徳之島は2つの登録区域からなる）で構成される約 42,700ha の陸域です。日本列島の南端部に位置する琉球列島の一部の島々であり、黒潮と亜熱帯性高気圧の影響を受け、温暖・多湿な亜熱帯性気候を呈し、主に常緑広葉樹多雨林に覆われています。このように亜熱帯域に多雨林が発達するのは、世界的にも稀であり、この地域の大きな特徴です。

**常緑広葉樹林**
登録区域で最も広い面積を占める植生。頻繁に通過する台風による定期的撹乱と、地形の複雑さが生物の多様な生息・生育環境を形成しており、豊かな生物多様性を支えている。

**渓流帯**
この地域では頻繁な降雨により、河川の中上流部に、川床や川岸が、周期的に冠水する渓流帯が形成されている。そこには、渓流植物と呼ばれる、急激な降水時のときは激流にもまれ、減水すると乾燥する特殊な環境に適応した植物が生育しており、これらには琉球列島の固有種や絶滅危惧種が多く含まれている。

**雲霧林**
登録区域のなかで最も標高の高い奄美大島の湯湾岳（標高 694m）をはじめ、徳之島の井之川岳（標高 645m）、沖縄島の与那覇岳（標高 503m）、西表島の古見岳（497m）などでは、日射量が限られ空中湿度が高い雲霧林があり、蘚苔類や着生および地生のランやシダ植物等が生育する豊かな森林が形成されている。

**マングローブ林**
国内でまとまった面積のマングローブ林が見られるのは琉球列島のみで、奄美大島の住用川河口のものがその北限である。西表島では仲間川、浦内川、後良川等の河口にマングローブ林が発達している。




世界自然遺産の登録区域
緩衝地帯

**＊ 環境省版レッドリスト**

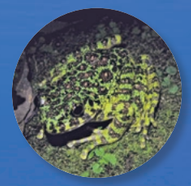
**絶滅危惧Ⅰ A 類（CR）**
ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの

**絶滅危惧Ⅰ B類（EN）**
近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの

**絶滅危惧Ⅱ類（VU）**
絶滅の危険が増大している種

**アマミマルバネクワガタ**
奄美大島と徳之島の固有種。マルバネクワガタ属は琉球列島で 4 種・2 亜種に分化しており、沖縄島にはオキナワマルバネクワガタ、西表島にはヤエヤママルバネクワガタとチャイロマルバネクワガタが生息している。
＊絶滅危惧Ⅱ類（VU）

**ルリカケス**
奄美大島とその周辺離島にのみ生息する固有種。ハトより小型で美しい瑠璃色の羽をもつカラスで、遠くヒマラヤに分布するインドカケスが本種と最も近縁種とされる。



**アマミイシカワガエル**
奄美大島の固有種。
緑色の地に金色の斑紋が鮮やかで「日本で最も美しいカエル」といわれている。沖縄島北部にのみ生息する近縁のオキナワイシカワガエルと従来は同種とされていたが、現在は別種となっている。
＊絶滅危惧Ⅰ B類（EN）

**オビトカゲモドキ**
徳之島の固有種。
本種と沖縄島に生息するクロイワトカゲモドキは種分化により生じた近縁種である。
＊絶滅危惧Ⅰ B類（EN）

**アマミノクロウサギ**
奄美大島と徳之島の固有種。
1 属 1 種で近縁種は存在しない。目と耳介が小さいといった特徴をもち、現存するウサギの中で最も原始的な姿といわれている。
＊絶滅危惧Ⅰ B類（EN）

**ケナガネズミ**
奄美大島、徳之島および沖縄島の固有種。日本の在来ネズミ類のなかで最大で、名前の通り体の表面に長く 6 センチに達する剛毛を持つ。夜行性で主に樹上で生活している。
＊絶滅危惧Ⅰ B類（EN）

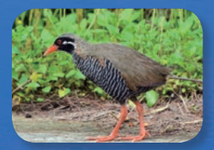
**イボイモリ**
奄美大島、徳之島、沖縄島等に生息する琉球列島の固有種。イモリの中では最も原始的な形態をとどめているといわれている。
＊絶滅危惧Ⅱ類（VU）

**野生生物保護センター**
環境省により奄美大島、沖縄島北部、西表島に設置されている。地域特有の野生生物展示により来訪者への解説や普及啓発を行うとともに、国内希少野生動植物種の保護増殖事業、調査研究等を推進する拠点となっている。

**奄美大島世界遺産センター**
奄美大島の森と生き物を実際にフィールドを歩いているように体感することができる再現フィールドや、奄美大島の自然を守るための取組やルールに関する展示コーナーがある。奄美群島国立公園の適正な利用促進と密猟盗掘対策等の保全管理の拠点となっている。2022 年環境省設置。
＊裏表紙参照

**ヤエヤマセマルハコガメ**
西表島と石垣島の固有亜種で、天然記念物に指定されている。主に林床の湿潤な照葉樹林に生息する。
＊絶滅危惧Ⅱ類（VU）

**コケタンポポ**
登録区域の 4 島の固有種。
渓流の岩場に生育し、草丈3～5㎝で、直径 1.5mm 程度の小さな花をつける。
＊絶滅危惧Ⅱ類（VU）



**ヤンバルクイナ**
沖縄島北部の固有種で、日本唯一飛翔能力のない鳥類。種の保存法に基づく保護増殖事業により、飼育下繁殖が行われている。
＊絶滅危惧ⅠA 類（CR）

**カンムリワシ**
インド、インドシナ、台湾と南アジア一帯に広く分布し、日本では、石垣島と西表島に固有亜種が生息。餌はカエル、ヘビ、ネズミ、カニなど多岐にわたり、西表島ではイリオモテヤマネコとともに上位捕食者である。
＊絶滅危惧ⅠA 類（CR）

**イリオモテヤマネコ**
大陸に分布するベンガルヤマネコの亜種で、西表島の固有亜種。西表島の最上位の捕食者で、登録地域唯一の肉食獣。西表島は、「ヤマネコの生息する世界最小の島」として知られている。
＊絶滅危惧ⅠA 類（CR）

**ヤンバルテナガコガネ**
沖縄島北部の固有種。
体長は 5 ～ 6cm で、日本最大の甲虫である。大径木が生育する自然林で見られる。
＊絶滅危惧Ⅰ B類（EN）

**オキナワセッコク**
沖縄島北部の固有種。
イスノキなど大径木の樹上に着生するランで、冬季から春季に開花する。
＊絶滅危惧Ⅰ B類（EN）

**ヤンバルクイナ生態展示学習施設**
ヤンバルクイナの生態展示を行い、保護活動についての普及啓発を行っている。
2013 年国頭村設置。